



年頭挨拶



洞爺湖町議会議長

大西 智

洞爺湖町長

下道 英明

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆さまにおかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。平素、町議会に対しまして、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本年3月、洞爺湖町が誕生し20年目の節目を迎えます。その礎は両町村の住民がお互いに協力し助け合いながら取り組まれてきた証であり、当町の発展にご尽力いただいた多くの皆さまに敬意と感謝を申し上げます。

さて、当町では多様な自然災害に対応するため、昨年「洞爺湖町地域防災計画」を改訂いたしました。前回の噴火から25年を経過した有珠山は、20年から30年周期で噴火すると言われ、既にその周期の目安の時期に入っていることから、引き続き皆様のご協力を得ながら、災害に強いまちづくりを目指し、さらなる防災・減災対策を進めて行く必要がございます。

また、地域経済については、原材料費や物流コストの上昇に起因した物価高騰に伴い、町内事業者をはじめ町民の皆さまの家計などに大きな影響を及ぼしていることから、地域振興策や生活支援対策の早期実施について、町や関係機関、関係団体と連携し必要な対策を講じてまいります。

今後も、当議会におきましては、常任委員会での活発な活動を行いながら、町民の皆さまのご意見を反映するよう努めてまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本年が皆さま方にとってより良い年となりますようにお祈り申し上げますと共に、皆さまのご健康とご多幸を心よりご祈念申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆さまにおかれましては、幸多き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃の町政運営に関して多大なるご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年は、2000年の有珠山噴火から四半世紀を迎え、火山防災を考えるパネルディスカッションのほか、当町と同じく火山と共生する全国の自治体に参加する火山砂防フォーラムを開催しました。発災当時の混乱をあらためて振り返り、噴火に負けないまちづくりを考える貴重な機会を得ることができ、町民の皆さまにより安心して日々の暮らしを送っていただけるよう災害対策を強化してまいります。

さて、今年3月には洞爺湖町が誕生して20年の節目となります。この20年を振り返りますと、人口減少・少子高齢化の進行、新型コロナウイルスの流行など多くの問題に見舞われました。その一方で、洞爺湖サミットの成功、「洞爺湖有珠山ジオパーク」の世界ジオパーク登録、入江・高砂貝塚を構成資産の一つとする「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録など後世に誇るべき足跡を刻むことができました。

次の20年を見つめると、経済や社会情勢、自然環境など様々な領域で変化の波はますます大きくなるかと思われます。町民ニーズを捉えた生活支援や産業振興、デジタル技術の活用、業務効率化に注力し、先行きを展望しづらい時代であろうとも変化に即したまちづくりを進められるよう職務を遂行してまいります。

新年が皆さまにとってかけがえのない一年となりますよう、皆さまのご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げ、年初のあいさつとさせていただきます。